

## 第1回「協働のまちづくり部会」会議録

日時：平成16年11月7日（日）

午前10時30分～12時30分

場所：市役所7階701議室

### 出席委員12名

- 1号委員 柳田吉範
- 2号委員（各種団体） 芝本清一、常石宜子
- 2号委員（公募） 太田寿忠、木之下純子、白木直子、村上いづ美、横谷卓也
- 3号委員 久隆浩（部会長）、田中晃代（副部会長）
- 4号委員 神田経治、藤進

### 欠席委員2名

- 1号委員 田中喜佳
- 2号委員（各種団体） 溝端繁

### 事務局

- 企画総務部 企画経営室企画グループ主幹：中野隆夫
- 企画総務部 企画経営室企画グループ：小池悟史

### 【企画グループ主幹 中野】

お待たせいたしました。皆さんお揃いになりましたようですので、先ほど会長の方から、誠に僭越ではございますが、仮議長を務めるようにとご指名をいただきました、事務局の中野でございます。部会長が決まりますまでの間、部会の会議の進行をさせていただきます。

それでは、早速でございますが、お手元にお配りした議事次第に基づきまして、議事に入らせていただきます。「協働のまちづくり部会」の部会長につきましては、規定によりまして、部会長は部会委員の互選によると定められております。どなたか、自薦、他薦を問わず、いらっしゃいませんか。

### 【芝本委員】

皆さん、どなたがやられてもいいかと思いますが、やはり、学識経験者で経験の豊富な方がいいのではないかと思います。特に、歳の年長の方の方がいいと思います。いかがですか。

【企画グループ主幹 中野】

ただ今、学識経験者の方で、経験豊富なご年長の方ということでご提案がございましたけどもよろしいでしょうか。年長の方といいますと、久委員となりますが。久委員ということで、ご異議がないようですので、部会長は久委員に決まりました。皆様のご協力によりまして、無事、仮議長の務めを終えることができました。ありがとうございます。そうしましたら、久委員は部会長席にお移りいただき、一言ご挨拶をお願いし、引き続きまして、これも規定によりまして、副部会長につきまして、久委員の方からご指名をいただきたいと思います。どうもご協力ありがとうございました。

【久部会長】

それでは、僭越でございますけれども、ご指名でございますので、皆様のご協力によりまして、部会の運営を進めさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。それでは、副部会長は、私の方の指名ということでございますけれども、出来ましたら田中晃代委員にサポートに入っていただきたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは、ただ今より部会の審議に入って参りたいと思っておりますけれども、私がいつもこういう委員会とか部会を担当させていただく時は、出来るだけ皆様のご意見を充分にお伺いしたいなというように運営をさせていただいております。河内長野では、常石委員と一緒に今、協働のまちづくりの懇談会をやらせていただいておりますけれども、まずは皆様のご意見をよくお聞きをしてから、それで事務局と共に部会のまとめとして、取りまとめさせていただきたいなと思っておりますので、そういう形で、出来るだけ、人数も少ないですので、ざっくばらんに、自由闊達にご意見をいただきたいと思いますと思っております。

今日から部会をさせていただきますけれども、我々の1つの目標は、前回配っていただいた資料の1、基本構想骨子(案)というのがお手元にあるかと思っておりますけれども、これの内容を充実させていくというようなことになっていくかと思っております。とりわけ、私どもは、具体的に言いますと、9ページにあります「安全安心都市」の部分と、5番目の「自律協働都市」、このあたり集中的に議論をさせていただいて、中身を詰めていきたいなと思っております。

それから、12ページにも、同じように、「安全安心都市」、それから「自律協働都市」というのがございますけれども、ここは重点施策というところでございますが、このあたりの重点施策の内容を議論させていただくということになります。多分、12ページを見ていただくと一番よくわかると思っておりますが、4番の「安全安心都市」の中に 番から 番までございます。そして、5番の「自律協働都市」の中にも 番から 番まで

ございまして、4番はどちらかという、主にハードなまちづくりが下の方と、それから、安全・安心というソフト面も含めたものが 5番ということになっていまして、5番は様々な仕組みづくりということになってくると思います。少しそういう意味では、4番と5番の雰囲気が変わってくるかなと思っております。

それと、多分、公募委員の皆さん、「協働のまちづくり部会」ちょっと人気が低かったようですが、多分1つには、かなり範囲が広いということと、4番と5番はかなり雰囲気的にも違うということで、ちょっとわかりやすいと言ったら失礼になるのかもしれませんが、上の2つの部会はどちらかというテーマが絞られていてわかりやすいので、そちらの方に多かったのかなと思いますけれども、特に5番のあたりに、市民の皆さんのご意見を十分に聞く必要がございますので、このあたりで色々とお感じになっている事をお聞かせ願いたいと思っております。

さて、今から具体的にお話をさせていただくわけですが、どうさせていただきますでしょうか。まずは、お互い、どういうお考えの持ち主かとか、どういうことを部会で議論したいなということ、知り合っておいた方がいいのかなと思いますので、少し自己紹介も兼ねまして、部会とか審議会でもこんなことを議論したい、あるいはこういうことを盛り込んでいただきたいというご意見、ご希望がありましたら、自己紹介も兼ねて少しお話を重ねていただければと思っております。それでは、順番で、申し訳ありませんが、柳田委員の方から順番に、座ったままで結構だと思いますのでよろしく願いいたします。

#### 【柳田委員】

議員選出で委員になりました柳田でございます。実は私、議員という立場で、大変難しい思いをしています。というのは、僕の個人的な思いというのは、議員というのは出来る限り審議会に入らずに、議会の場で議論するというのが筋ではなかろうかという思いがあります。というのはやはり、議員という立場で、別途またこれは、審議会から出てきた案をたたけるという立場に立っていますので、基本的に審議会に入るべきではない、これはちょっと、基本的に持っているのですが、まだそれが議会の中で克服出来てませんので、今回は委員という立場で参加をさせていただいているという、少し、自分としても難しいなという思いがあります。出来る限り、公募の皆さんのご意見を聞かせていただきながら、自分なりの発言もさせていただきたいと思っております。

それから、この「協働のまちづくり部会」を選んだのは、従来以上に、どう市民参加がこの河内長野をよくしていくんだという視点に立って、この部会を選ばせていただきました。ただ、皆様も、第1希望から第2希望に移られた方もおられるように、この総体を見ると他にも発言はしたいというのはあるんですが、一応部会に分けられてますんで、そういう立場に立って、この「協働のまちづくり部会」に参画をさせていただいております。以上です、よろしく願いいたします。

【横谷委員】

横谷です。市民委員で入っています。「協働のまちづくり部会」を選んだ理由なんですが、これから私自身が河内長野のまちづくりに参加、参画していきやすい仕組みというのを皆さんと共に考えられればと思って選ばせてもらいました。以上です。

【常石委員】

ボランティアの推進委員会で活動しております常石といいます。私は、ボランティアの推進委員会で活動しておりますけれども、当然、その意味から協働ということが一番関りの深いところで、協働の懇談会に久先生の指導の下で現在、進めております。

協働ということ、はじめはもっと端的に捉えていたんですけども、最近行革の会議とか、色々なところに出るようになりますと、この協働ということが、色々な方面から捉えないとダメだなということが、今になって少しずつわかってきています。でも、一番最初の純真だった市民参加の下での協働という考えと、広く市の行政からの協働ということを考えていきたいと思っています。以上です。

【太田委員】

太田と申します。今回、こういう会に出席させていただくようになりましたのは、私ちょうど60歳になりまして、シルバーへ加入いたしました。そこで何かできることはないかと、多分、皆さんも大体60歳になるとそんなことを考えるのではないかなと思うのですが、シルバーもやっていますし、それから今、もう4年前になりますけれど、私は、府営住宅に移りまして、府営住宅で生活していますが、今日も実は、朝から月1回の掃除ということで、皆さんに集まってもらってやっているんですが、シルバーもさることながら、府営住宅の現状も非常に高齢化している。私自身も60歳になって色々考えることもありましたけども、やはり協業と言いますか、横のつながりというのが非常に何か、これから問われてくるのではないかなと。毎日の生活で考えてみてもそう思いますし、それについてですね。私は今回、第1希望ではなかったんですが、どちらでも、こちらの方も私はやりたいなと思っていたんですが、その中で何か、私どものシルバーも、そのような形でひとつ提言が出来ないかなと、こう思っております。ひとつよろしく願いします。

【木之下(純)委員】

木之下純子です。どうぞよろしくお願いいたします。私もこれを選ぶのに、第1希望で選ばせていただいたんですけども、1番の理由は、今までどちらかというと、「調和と共生のまちづくり」とか、「元気なまちづくり」とかというところで自分自身色々なことをやってきて、やはりそれを実現したりとか、また、それを広めていったりとか、市民全体

として何か取組めることと言った時に、いつもやはりどこかであれしてくるのが、行政との協働とか、また、事業所との協働とか色々なことをやっていく中で、何か仕組みというものがないと、なかなか、行政とっては縦割りではないんですけど、そういう風な部分でいつも頭を打ってきたというところがありましたので、それで今回は、私の分野ではないんですけども、協働というところの会で、ここでまた勉強しながら、また、今まで、今日は、調和と共生のまちづくりとか、元気なまちづくりという色々な形で、行政と関わりを持ってきたりだとか、または、それぞれ、市民として活動してきたことで、何か提言できていけたらいいかなと思って参加しております。よろしくお願いいたします。

#### 【白木委員】

白木直子です。よろしくお願いいたします。私の方は、はじめは「元気なまちづくり」の方を希望していたんですけども。

普段は、私は大阪市内の方に働きに出ているんですけども、職場の人とかに、「どこに住んでいるの？」と聞かれて、「河内長野」と言うと、多分皆さん、河内長野という位置的なものだけのイメージで言われると思うんですけど、あまり、河内長野という反応があまり良くないというか。私としては、いいところも沢山あると思うんですけども、こうなればもっといいのになというところも沢山あって、そういうので、はじめは「元気なまちづくり」という方を希望していたんですけども。

河内長野をもっと、いいところはいいところでアピールできて、こうなればいいなと私が思っているところを、変えていきたいなと思って、こういう場に参加させていただきました。こちらの部会では、まだ考えがあるようでまとまっていないんですけども、私ができること、思っていることを意見させていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

#### 【久部会長】

ありがとうございます。それでは、村上さん、どうぞ。

#### 【村上委員】

村上いづ美です。よろしくお願いいたします。私も「元気なまちづくり部会」を第1志望にしていたので、今日はちょっとまだ、「協働のまちづくり部会」というのにピンときていないところがあるんですけども。

私は、2年前に河内長野市に結婚で来たんですけども、ずっと八尾市の方に住んでまして、学校もずっと東大阪市の方に通ってまして、ちょっと、やはり河内長野市は、来た正直な感想なんですけども、河内長野市は元気がないなと思ったんですよ。それで、第1希望の「元気なまちづくり部会」を希望していたんですけども。

私には、1歳になる子どもがいてるんですけども、これからずっと、40年、50年と住んでいくので、もっと住みやすいというか、今でも住みやすいんですけども、もっと子ども達も集まって若い人たちももっともっと住んでいくようなまちにしていけたらいいなと思って参加させていただいています。

やはり、友人とかも河内長野で少しは出来たんですけども、正直なところ、みんなやっぱり、最後はちょっと出たいという意見が結構あるので、私は住んでいきたいと思っているので、主人の両親の方もいてるので、これではいけないと思って応募しました。よろしくお願いします。

#### 【芝本委員】

健全育成から来ました芝本です。ちょっと話が違いますけども、生まれてずっと、60年間、河内長野にあります。ですが、いいまちだと思っております。だから、一緒に勉強していければと思っております。以上です。

#### 【久部会長】

ありがとうございます。神田さん、よろしくお願いします。

#### 【神田委員】

今、大阪府の企画室というところにおります、神田と申します。大阪府の方でも、2000年に総合計画をつくりまして、その時、私はまだおりませんでした。最近特に、社会経済情勢が非常に大きく変わってきて、総合計画の役割というものが非常に難しくなってきたなという風に思っております。

大阪府の方では、それをつくりました時に、今回の河内長野市さんの場合は、基本構想、基本計画、実施計画というものをつくると。これは従来、大体、市町村の総合計画はそういう形になってこられたんですけども、大阪府の場合は、基本構想、基本計画はあるんですが、実施計画というものはつくっていないんです。その代わり、「めざそう値」というものをつくっています。それは何かと言いますと、色々な分野についての指標を設定しまして、例えば、「大阪府が元気だと思ふ府民の割合」とか、あるいは、「一人当たりの公園の面積の割合」だとか。そういう実施計画というものは、具体的にどんな事業をどれだけやるかということなんですけども、実際に府民の方々が、いくらお金をかけて事業をやっても、それを、例えば、「楽しい」とか、「元気が出てる」とか、あるいは「ゆとりがある」とか、「文化芸術に親しんでいる」とかというようなことが、実感としてわかってもらえるかどうかということの方が、端的に目標としてふさわしいのではないかという、まあいろいろ議論もあるみたいなんですけども。そういう風なことを2001年に設定をして、今、その進行管理をやっていきます。

それがいいかどうか、大阪府という、府民と、住民の方と、あまり接点がないのか

なという、市町村に比べると。河内長野市さんの場合はそういう形でいいのかどうかということも含めて、皆さん方の色々なご意見を聞きながら、私なりの思い、あるいは、別に大阪府がこうやっているから市町村もそうされるべきだというつもりはないのですが、何かその辺でお役に立てることがあれば、色々とお話をさせていただければという風に思っております。よろしくお願いいたします。

#### 【藤委員】

最後になりますが、河内長野市の助役をしております、藤と申します。よろしくお願いいたします。第4次総合計画ということで、過去、第1次、第2次、第3次と、やってきたところですが、本当に大変な時代が来たなということで、何が大変なんですかというと、まさかこう早く人口が減ると思っていなかったと。まだ、河内長野市は、第2次の時から、人口15万都市にしようということでやってきたと。ところが、第3次の途中、平成12年の2月から人口が減ってきまして、大体1年間に500人ぐらい、平均すると1月に40人学級が1つなくなっていくかなと、そういう風なことで今、来ております。少しちょっと止まったかなという感じもしているのですが、この間で約2千数百人減りました。減るとどうなるんですかと言うと、減るとやはり市も、元気がなくなってくるようなんですね。だから、そのあたりを、この第4次総合計画で、今まではある程度の施策で取り組めば、人口が増えてくるんだと。要するに長野に来てくれたと、要するに他府県から、もしくは、隣接の市から長野に来てくれたと。ところが、今は何かをしないと、本当に住んで良かったなというまちにしないと来てくれませんよと、今もちょっと出ましたが、もしかしたら出ていこうかなと思う方もおられるという話もあります。そういう中で、第4次総合計画は非常に難しい計画をつくらなければならないのかなと。

そして少子化、子どもさんが減ってきたということで、将来を少し心配しなければならぬのかなと。

また、今までの日本経済を支えてきていただいた方々が、そろそろ年金生活者に入ってくる時代になったかなと、そういう風なことも、ちょっと今までとは違うものが、この第4次総合計画にはあるのではないかなということで、私は、この「安心安全の都市」については、出来れば皆さんの声を聞かせていただきたいと。今まで、行政サービスを行政がしておけば良かった時代から、今度は市民の方の方から、どんな行政サービスを受ける、受ける側からすると、「これはいらぬ」と。「こんなサービスの方がいいよ」という風なことを、多分、感じておられるのではないかなと、そのあたりも聞かせていただけて、行政側の立場でもお話をさせていただけたらなと思います。

特に、後の「自律協働都市」の中でも、行政改革と広域連携について、今までの私の35年間の行政経験を踏まえた中で、やはりこれからのまちというものは、合併問題もありますけども、どういう連携を組みながらやっていくのか、そして、将来合併するのか

どうかということも、この場で議論をさせていただければという風に思っております。私は特にどこを選んだというわけではなくて、ご指名でしたのでここに入りましたけども、ただ、先ほどの柳田委員さんと同じで、非常に言い切ってしまうと難しい立場にございますので、その点はなるべく控えめに発言させていただきたいという風に思いますので、よろしくお願いいたします。

【久部会長】

はい、ありがとうございます。では、田中委員。

【田中委員】

近畿大学の非常勤の田中と申します。私は住民主体のまちづくりに関する研究とか、あるいは、他市で実践をしたりとかということをしてきていました。一時期、豊中市のまちづくり支援課に嘱託職員として3年間という契約でいたのですが、どうも行政の職員になると市民の顔をちゃんと見るのが難しいんですね。また、吹田市というところに住んでいるのですが、そこでは市民としてまちづくりを進めていた時は、行政の顔がちょっとよくわからない。そういう、立場の違いによって、全然見方も変わってきてしまうし、人の顔も見えないという状況で、じゃあ、どこをどういう場所で、どこでどういう風に行政と市民が手を組んだらいいのかということで、今もちょっと色々試行錯誤している段階です。この河内長野の場所で、皆さんと一緒にそういう仕組みができればと思って来させていただきました。よろしくお願いいたします。

【久部会長】

はい、ありがとうございます。私の方も、簡単に自己紹介も含めてお話させていただきたいと思うのですが、実は私、この4番と5番の両方受け持たせてもらうのは、ある意味で、専門にはぴったりなんですね。多分、4番と5番を両方受け持ってぴったりの学識経験者はほとんどいないと思います。

ちょっとそのあたりの話も含めてお話させていただきたいのですが、元々は、都市計画をずっと長年やって参りました。今も理工学部ということで、都市計画を専らとする研究室なんですけれども、20数年間、都市計画をずっとやってきまして、いくら専門家なり行政が絵を描いても、先ほどからも木之下さんもおっしゃっていましたが、それを実現するための仕組みが整っていないと、なかなか形になっていかないわけですね。長野でも再開発をやられましたけども、やはり、土地をお持ちの方の協力がなければいけないし、最初の頃は大揉めになって、「そんなに協力する必要はない」みたいな話も出てきたりするわけですね。そういう中で、自分なりに悩んできました。

もっと市民の皆さんの立場に立った都市計画が出来ないのかなということでもずっと頑張ってきたんですけども、もう20年ぐらいになりますかね、たまたま豊中駅前のもちづ



くり協議会の方と知り合いになりまして、そこから、いわゆる住民主体のまちづくりをずっと支援をしてきたわけです。

そこから、まちづくりという観点で仕事を始めたわけですが、地域に行けば行くほど、皆さんの関心は単に都市計画だけではないんですね。教育の問題であったり、福祉の問題であったり、環境の問題として、さまざまな問題を生活を通じて総合的に考えてらっしゃる。それを、専門家なり行政が、勝手に都市計画とか福祉とかというように、タテに切って対応しようとする。そのあたりをどうも、今まではつなががうまくいっていないという気がしまして、何とかその、ねじれた構造というのが出来ていたかどうか分かりませんが、生活あるいは地域から、総合的にトータルに考えてらっしゃる市民の意識と、それをトータルに受けていく行政の仕組み、何かそんなものが出来ないのかなということ、ずっと頑張ってきています。

市民側の市民活動の応援もしていかないと、まだまだ、皆さんのように、日曜日の貴重な時間を割いてまで、計画づくりと一緒にやろうじゃないかという市民の方も多くはないので、そのあたりの市民活動の応援も最近は色々なところでさせてもらうようになりました。

河内長野では、先ほどお話しさせていただきましたように、協働のまちづくりの懇談会のお世話もさせていただいておりますけども、隣の富田林でも、同じように協働のまちづくりのお話をさせていただいているんですが、たまたまそのつながりで、先月から滝谷不動の駅前のまちづくり協議会の方に呼んでいただいて、最初は1回のお話で終わるという話だったんですけども、幸いなことに気に入ってくださって、来月から毎月1回、滝谷不動まで出かけて行って、住民の方とまちづくりを進めていこうじゃないかということで、お手伝いさせていただくことになりました。そういう、色々な、現場でお手伝いをさせていただいて、そういう経験を、皆さんにも、ご協力の中で色々ご議論をしたいなと思っております。

先ほどのお話の中でも、色々協働という形で、関心のあられる方が多いということをお聞かせいただきましたけれども、私の経験から言いますと、行政と市民の協働もこれから構築していかないといけないんですけども、実は、市民同士のつながりづくりも、なかなか、今のところはうまくいっておりません。多分、芝本委員さんは、地域で色々青少年の育成のために頑張っていらっしゃると思いますけれども、その中に、20代、30代の方がもっともっと入っていただきたいというようなことを常に思っていると思うんですけども、なかなか時間の制約とかそういう問題で、地域の活動は、どうしてもお年を召した方が中心にならざるを得ないというような問題があったり、あるいは、色々な地域、市民活動も動いていますけれども、案外、例えばテーマが違ったり、例えばグループが違ったら、情報交換の場所というのがまだまだないとか、何かそのあたり、実は、市民同士の中のつながりも、もっともっと作っていく必要があって、それを行政がどうお手伝いできるかということも、とても重要なテーマになってくると思

ますので、そのあたりをまた、後々、お話が出来たらなと思っております。

ちょっと話が長くなりましたけども、私はそういう形で色々なお手伝いをしています。地域福祉計画をお手伝いすることもありますし、それから、泉大津では次世代育成計画ということで、子育て、子育ての計画作りをお手伝いすることがあって、もともとは都市計画の人間なんですけども、今は色々な形でお手伝いをしております。

先ほどもお話をしましたけれども、今までは、どちらかという学識経験者も縦割りで、福祉の先生は環境のことはあまりタッチされない、逆も然りですね。でも、私の場合は色々なところに首を突っ込んで、逆に、一つひとつの分野は深くはないけれど、トータルに発言できる、トータルに考えることが出来る学識経験者として、少し変わった役割を今担って、お仕事をさせていただいておりますので、多分その辺は、皆さんからどんな話が出てきても、色々とお話させていただけると思いますので、先ほど、4番、5番というようにテーマを一応絞らせていただきましたけれども、多分、安全安心の話をしている中で、環境の問題が解決出来ないそれは出来ませんよとか、あるいは、人権の問題が基本にないと、安心安全というまちづくりは出来ないんじゃないですかという話が多分出てくると思いますので、話の発端は4番、5番かもしれませんが、そこから色々な問題が出てきた時には、部会長・副部会長会議でそれぞれの部会にお渡しするという役割になっていくかと思っておりますので、そういう意味で、あまり、「これはこの話と違うよ」ということで、自分で壁を作らずに、色々な思いを語っていただければいいかなと思っております。そういうことで、ご協力をお願いしたいと思っております。

さて、今日は多分、特に公募委員さんで第2希望ということになった方には、事前準備というのは多分ないんだと思うんですが、少し、これからまだ1時間半位、時間がございますので、この構想の骨子について色々意見交換をさせていただきたいなと思っております。

前回、簡単にご説明をいただきましたが、もうちょっと理解をしたいのでこういうところを教えてくださいというようなご質問でも結構なんですけども、特にまず、1、2章のところでは何かご意見等がありましたらお伺をしたいんですけども。どうでしょうか、順番に行きましょうか。1章のところ、1ページ、2ページのところ、何かご意見ございますでしょうか。特に先ほど、神田委員の方から、大阪府の総合計画が、少し、今までの総合計画と構成とか内容が変わっていますよという話があったんですけども、ここ、1ページ、2ページというのは、これからの総合計画の大きな内容、仕組みを言っている部分ですが、何かこのあたりでご意見とかご質問とかございますでしょうか。

思いつきみたいな話でも結構です。例えば、ある市では小学校4年生がわかる計画づくりということで、言葉遣いも、それから、使っている漢字も、小学校4年生がわかる漢字を使うというような計画もあるんですね。そういう意味では、出来るだけわかりやすくという話でも結構ですし、何か総合計画と市民の皆さんとの関係みたいな話ですね、少し何かこう挙げていただいただけると、と思うんですけども。はい、どうぞ。

### 【木之下（純）委員】

まちづくりの仕組みの構築とかというあたりで、少し考えたんですけども、河内長野市が今までに、先ほど村上さんかな、最近来られて、また出て行きたいなとか、そのようなことが色々あるかと思うんですけども、今までちょっと色々なことに関わってきて、何かが起こった時には、すごく早く対応する行政なんです、結構ね。それで、するんですけども、私がちょっと関わっていたごみ問題を例にとると、それを早くね、だからね、缶の採集分別、ごみの採集分別を南河内は大阪府下で、始めたんです。でも、それを例えばゴミ分割収集なども府下で一番早くやっている。だがそれをやはり、早くやっちゃっているんですが、徹底して、色々な意味で市民もそうなんですけども、やはり継続してやっていくという部分とかというのは、やはり、市民に浸透するという仕組みというのが、すごい、そのあたりがこれからの、ってPR。やったということも、他の市は後から、もう5、6年間経ってからやったことなんですけども、新聞とかでバツと出ると、「あっ、よそはやっている。うちのところは悔しいな」という部分があるんですね。

今まで、行政の発表とか対応とかいうのも、悪い面はすぐに出ますよね。どこでも放っておいても、ニュース性があれば取りにくるのであれなんですけども、そういう風なPRという部分が、すごい、伝えるとかPRするとか、いい部分を出していく、表現していくという部分が、それをうまくやって、先ほど、府の方でも、どのくらい評価されているだとか、皆がどれくらいわかってもらってるんだろうかなというあたりね、それにどうしたらいいかという、それを伝える仕組みとかエネルギーとかいうその部分を、少し、今回の中に入れてやっていけたら、市民も参加しやすいし、わかりやすいという部分があるのでは。ちょっとPRの部分を、もちろん、第4次総合計画もそうなんですけども、伝える方法をこれから入れていきたいなと。今すぐこれというのはいないんですけど。

### 【久部会長】

はい、ありがとうございます。そういう形で、総合計画全体に対する、何か思いみたいなものを、他の方もございましたらお話をさせていただきたいんですけども。

どうですか、皆さんは多分、特に公募の方はそうだと思いますけども、総合計画の審議会の募集というのを広報で見られて応募されたのだと思うんですけど、多分周りの同じ年代の方とかご近所の方で、総合計画に関心のあられる方というのは、あまりいないと思うんですよね。本当は非常に大切な、我々のまちづくりとか生活を支える行政の仕事を、この10年の方向を決める、大切な計画であるにも関わらず、あまり一般の市民の方は、総合計画って関心がないんですね。そのあたりはどうでしょう、何か。先ほど、木之下さんの方から、もっと浸透するような仕組みづくりをというお話があったんですけども。

【木之下（純）委員】

村上さんに質問なんですけれども、何を見て応募されたんですか。

【村上委員】

広報です。

【木之下（純）委員】

他の方は。

【久部会長】

横谷さんは。

【横谷委員】

僕は、図書館にいている時にチラシがおいてあったんですね。それを見て、これはちょっと行かないとと、それで作文を一生懸命書いたんですけども。

【太田委員】

私も広報で見せていただいたと思います。たまたま、さっきも話しましたが、いろいろ思いがあったんで。

ただ、具体の策定について、今ちょっとご質問させていただこうと思っていたんですが、私共も具体的なものを、どれほどここで話をしているものやら、全くここは、極端に言えば、テーマというのではないのでしょうか、もちろん基本計画という話になるんでしょうが、具体的な話の中からそういうものを持っていくのか、あるいは、枝葉があって幹をつけるのか、もちろん、基本的には幹があって枝葉をつけようという話なんだろうけど、一つずつ細かいことをここで話していて、この話の中で、短い期間でどのような考え方が持っていけるものかなと、こう思っているんですが。それは、久先生なんかはずっと色々なところで今、取り組んでおられるんでしょうけど、多分同じような話があちこちで出ているとは思いますが、その辺はどうなんだろうね。ある程度こういうことで、もちろんこれは議事を進行していく上で、期限が定められていますけども、どのようなステップといいますか、持って行きたいという結論が出てしまうのでしょうか、そのようなお考えはどうなんですか。

【久部会長】

多分、3つの部会でも微妙に進め方が違ってくると思うんですね。私の場合は、先ほどから申し上げていますように、市民の皆さんとべったりとまちづくりをやっている人間

ですから、出来るだけ、生活から発する声を十分に聞きたいなという気があるんですね。ただ、太田委員がおっしゃったように、個別、具体の話沢山しても、総合計画という内容からすると、全部受け入れるわけにはいかないわけですね。先ほどの、例えば、子育て、子育ての話だったら、次世代育成行動計画というものが別途ありますし、それから、福祉の話は、今、河内長野でも地域福祉計画が策定をされているわけですね。そういう分野別にしっかりとした計画が出てきているわけですので、個別、具体の話はそういうところでしっかりと押さえていくということになると思います。それから、先ほど神田委員がおっしゃったように、基本構想、基本計画、それと実施計画という3段階になりますので、具体的な話というのは実施計画の中に書き込む内容なんですね。我々が今、期待されているのは、基本構想の部分、一番根本的、しかしながら内容的にはふわっとした部分というのを求められているので、そのあたりの、実施計画レベルの内容と基本構想をどうつないでいくかということに気にならなければいけないのではないかと思います。

私も他市で総合計画の部会をお手伝いさせていただいた時は、私はこういうようにしているということ、少しご披露させていただきたいと思うんですけども、多分一番わかりやすいのは個別、具体の話ですね。例えば、保育サービスの充実であったり、あるいは、こういうところに公園がほしいという話、あるいは、この道路はこうしてほしいという話があると思うんですけども、それを導くための大きな方針というのを決めておかないといけないんですね。個別、具体の話は、一番わかりやすいような発言は、そこからスタートしていただくのは大いに結構だと思いますけれど、最後それが、具体的な施策がどこに書かれているかではなくて、その施策を導くための文章にちゃんと構想がなっているかどうかというところで、皆さんと意見交換したいと思えますし、それでチェックをかけていきたいなと思います。そういう形で住み分けていければと思うんですね。

例えば、具体的に言いますと、八尾は都市計画と公園が一緒になっていました。今回は公園は、上の部会に行ったときにですけども、公園の話を書いている時に、ある委員さんが、「公園というのは地域のコミュニケーションづくりの核ですよ」という話が出たんです。今まで、どちらかというと、ゆとりとか緑とか、そんな話で公園を作っていくという話になっていたんですけども、その、地域のコミュニケーションの核という話が出ましたので、文章の中にも「これからの公園づくりは、ゆとりや緑だけではなくて、地域のコミュニケーションの核として整備を進めていきます」という文章に変えたんですね。そんな非常に大切なことを、ここでしっかりと書いておきたいと思いがございます。

ちょっと違う例を挙げますと、法律でいうと、憲法と個別の法律がありますけど、個別の法律で色々なことが決まっていくわけですけども、それを導くための大きな方針は憲法に書いてあるんですね。ですから、この法律で言うと、我々はその憲法にあたる

ころをしっかりと書いておきたいなど。ですから、人権の問題、あるいは、平和の問題、そういう大きな方向性を示すような文章を基本構想としてしっかりと書いておきたいなと思っておりますし。恐らく、ふわっとした内容になってしまうと、河内長野以外でも同じような文章になってしまうかもしれませんが、ここで十分に、それはどういう内容を導くために書いているのかということ、皆で共有しておきますと、同じような文章に見えるかもしれませんが、これは実際には、こういうことを進めるための文章として書いているんだという話になって参りますので、そんな議論をお願いできたらと思うんですけども。大体これで理解をしていただけましたでしょうか。

それでは、先ほどの木之下委員から投げかけられていたご質問の続きですが、白木委員さんの方は、どういうことで応募されたのでしょうか。

**【白木委員】**

市役所に知り合いがおりまして、こういうことをやっているというのを聞いて、内容を見て応募しました。多分、その子がいなければ、知らなかったと思います。

**【久部会長】**

だから、今、多分、お休みになっている市民さんと同じように、勝手に誰かに決められてという話になってしまうと。

**【白木委員】**

はい。こういう場があるとも知らなかっただろうと。

**【久部会長】**

ありがとうございます。1ページ、2ページでいかがでしょうか。

**【柳田委員】**

すいません。議論の中で、特にこの1ページのところにもありますように、計画そのものが「まちづくりの仕組みの構築」の2点目で、第4次総合計画は云々ということで、「市民みんなの計画」と、つまり策定段階でどう市民参加を求めて具体的にしていくのかという視点が、強調するというか、もう少し具体的に、これ、3次と比較してみますと、今回、少し変わっているのは進行表、部会のやつの中でも、はっきり言うと、3月のパブリックコメント実施、これが3次と違っているということで、ここは、3次と比較しても、本当に4次作成にあたって、どのようにもっとも市民の参加を求めていくのかと、難しいんですけど、その点の視点を、もう少しちょっと議論を具体的にはしてほしいなと思います。

#### 【久部会長】

実は、資料としてもいただいていると思いますけれども、「市民の提案」は皆さんにはお渡ししていますか。これに先立って、1年かけて皆さんで議論していただいたという事が1つのポイントではないかなと思うんです。今日はまだ申し上げてなかったんですけども、その皆さんが書かれた提案書を、やはり我々は無視するわけにはいかないし、それが非常に大きな柱だと思いますので。それを我々なりに解釈させていただいて、一委員の意見として置き換えて発言をしていただければ、1年間頑張ってくださった方々のご意向も反映できるのではないかなと思うんです。そこを大切にすることが、まず、先ほど柳田委員がおっしゃった市民参加の仕組み、あるいはみんなの計画づくりの大きな柱だと思うんです。

あと、どうですかね、もっともっとパブリックコメントはあるんですけども、どういう形で市民の方々の、本来の意味でのみんなの計画にしていくかというご提案だったと思うんですが、何かそのあたりでご意見とかございますか。先ほどの木之下委員は、PRをいかにするかということだったと思うんですけど、具体的にこれを我々が審議会で議論して、案を煮詰めますけれども、それをどういう形で、ここに書かれている市民みんなの計画に、本当の意味で仕立てていくかということで、少しご意見をいただければと思うんですが。

#### 【常石委員】

その関連になるかどうか分からないんですけども、先ほど久先生が、この総合計画を作ることに、どれだけの人が関心、意識があるだろうかということ、ここにいてる委員に問いかかれたんですけども、これを返してみると、私が思うには、市民の人というのは、本当に関心があまり感じられないんですね。特に、もっと具体的な市の行政の予算運営について、この前広報で、すごく特集が組まれて、「今年度の河内長野はこうなんです」と、「こういう点がこうあります」という問題点も含めて、財政再建団体という云々まで出ても、一般の方とそういう話をする、「へー、そうなの」とか、「まあ、私たちが普通に生活していけるんやったらそんなのは関係ないわ」とかというような、そういう風潮みたいなものがまだまだあると思うんです。のんびりというのか何というのか、問題意識が持てていない。そのあたりで、先ほど木之下さんが言われた意見のように、やはりこの市に住む一人ひとりが、この市にどういう風に住んでいくのかということも含めて、市の方もPRを、何か、一方的なだけではなくて、その辺の両方での受身とかものの考え方とか、いろんなアイデアの出し方が、考えられてきたらいいなと。皆最近特に、こういう審議会に出るようになって、近所の人とか色々ところで話を見ると、皆が本当に関心がないんだなと。

今こそ関心を持たないと、自分らがここで最後まで暮らして、ここの中の墓に死んでいくんだったら、もっと関心を持たないとと思うんだけど、皆はそれだけ苦に感じて

いない、生きることをね。お金があるだけが、自分個人の資産があるだけが生きていく道ではないのになという風にすごく感じますね。

この前の、これに先立った市民会議にもずっと出ていたんですが、その時にも、メンバーのほとんどの方が、9割が新しい住民だったんですね、よそから河内長野に来ましたという方があって、その時でも、すごくこういう意見が出ましたよね。

#### 【久部会長】

なかなかそのことは難しいですよ。この前も、吹田市でまちづくり基本条例を作ろうということで、まあ、自治基本条例ですよ。これは法律の中では、市民と行政がこれから市民自治をどうするかという、非常に大切な市民あるいは市の憲法をつくっているんですけども、その時に出来るだけ沢山のご意見を聞こうということで、今、地域ごとにご意見を聞くためのワークショップの会をしているんですね。担当者の方とお話をすると、1回目にやった地域で来てくださった方が2人ということなんですね。2回目が5人ということで、「自治基本条例」という名前が難しいのかもしれないんですけども、大切なことを決めようとしているのに、説明会とかワークショップをやっても、そういうレベルなんだという嘆きの言葉を担当者から聞いたんですね。そのあたり、本当に、市役所も色々な形で呼びかけてはいるんでしょうけれど、常石さんがおっしゃるように、普通に暮らしていると、ちょっと距離がありますよね。

いかがでしょうか、そのあたりは。

#### 【太田委員】

その点ですけども、確かにここに出てきて、こういう形で応募しようかという、私も含めてそうなんですけども、やはりそれは、関心があるからこそ、どういう形であれ出てきていると思うんです。まあ、もちろん見ても、それは「どうせ私は関係ない」という人、無関心派ですね、それは大多数だと思います。

それで、私も今、ボランティアもあれなんですけども、シルバーの方もそうですが、シルバーなんかで若干経済的な面が含まれて会に入っておられますけども、今私がやっているのは、たまたま、ヘルパーの資格を持っているのが、シルバーの中に100人位いるんですよ。女性の場合は、割に歳をいっても口が利くというか、まあ、結構仕事はあるんですね。ヘルパーで、男子のヘルパーというものは、ほとんどヘルパーの仕事いうのはないですね。あえて言えば、介添えぐらいのものなんですけども。まあ、それは余分なことなんですけども、要するに私が言いたいのは、出てきて何でもやる、まあ、ボランティアでも市の方で色々やっておられますけど、出てくる人はまだいいですよ。私は今団地にいるんで、先ほども言いましたけども、だんだん高齢化して、もう私のところの棟でも、ほとんど年寄りばかりになっているんですね。そして1人になっているんですね。一体、この人は、部屋の中でしてたら、色々ヘルパーも来ておりますけども、連絡



がつくのかなと。月 1 回でも出て来られなかったらどうしたのかなと思うんですが。要するに、掃除にでも何でも、出て来て、顔を出される方はまだいいんです。年寄りはそのような状態です。若い人は若い人で、また全然、「掃除なんかは私は関係ないよ」というようなスタイルで。

またここで、そういう話になってくるかどうかは知りませんが、要するに、何かそういうものに引っ張り出せる組織づくりがいないのかなと。本来は、ボランティアにしても、何をやるにしても、自主的にということが建前なんでしょうけど、現実問題とすれば、そういうような形で、何かまあ、強制とは言わなくても、ある程度そういうところに引っ張り出してきてくれるということがまず、ここの私達の関心を持ってもらうステップになるのではないかと。何でもかんでも、「やりましょう、やりましょう」と私達がいくら言ったところで、多分難しいことではないかなと。話としては随分後ろ向きの話でしょうけども、現実問題としたらそうじゃないかなと思うんですね。ですから、そういうものを何か入れ込んでいけたらなというのも考えにあります。

そして、私の方の、先ほどからシルバー、シルバーという話になっていますけども、色々私も顔を突っ込んでいるんですがね、皆さん、何か役に立つことがあればやりたいよという考えは、ほとんど持っておられるのではないのでしょうか。ところが、シルバーというのは無償だというベースがあって、それがあまりにも全てについて言われているものですから、現実的にボランティアをやろうと思うと、全部自分で持ち出しなんですよね。これも、何も金をくれと言うわけではないのですが、そういう人をそういうところに引っ張り出してきて、何かの生産性のことではなくても、やることで、有料までとはいわなくても、やはりそういう下地ね、例えばそれに対して、何かの形であまり負担がかからないような形のものに、これはまあ、財政の問題もあるかと思いますが、何かボランティアというと全部ただで、「あんたらが勝手に来て勝手にやりなさい」と。どんな遠いところでね。私も、滝畑なんかで資料館で皆、これからまた留守番が始まるんですけど、それでも車を持っておられない人は来れないですよね。バスがどうかと言ってもですね、それも大変だと。そうするともう、何も費用がいるからという問題ではなくて、現実的に参加できないんですよね。ですから、そういうものを 1 つずつ、1 つというか、方針として若干考えていただければ、特に年寄りが多いわけですから、それによって引っ張り出すというのもあるのじゃないかなと思うんですね。

ですから、そういうものでちょっと関心、逆にそういうことで関心を持ってもらう。関心を持ってもらうからやるんだというのではなくて、関心を持ってもらうためにそういうことも必要なんだよということを私はちょっと言いたいんですけどね。

#### 【久部会長】

多分 3 章、4 章のあたりで、皆さんと一緒に議論しながら書き込めたらいいなと思います。1 ページ、2 ページのあたりは大体よろしゅうございますか。また今日帰られて気が

付けば次回でも結構ですので、よろしくお願いします。

それでは、3 ページ、4 ページ、5 ページ、6 ページ、このあたりは「背景」とか、あるいはこの河内長野の特徴みたいなものを書いている部分ですけれども、これで何かお気づきになった点、あるいは、もう少し書き込んでおいたらいいなと思った点などはございますでしょうか。

先ほど、お話の中で、白木さんとか村上さんの方から、河内長野のよさをアピールしたいなとか、あるいは、暮らしやすいまちをつくりたいなという話があったんですけども、この中で特に、5 ページ、6 ページで、「発展の可能性」というのがあるんですけど、特にお二人、先ほど自己紹介でお話しになった話の中で、ご自分が言いたいなということ、この5 ページ、6 ページに大体盛り込まれておりますでしょうか。

#### 【白木委員】

前回いただいた資料の中に、ハイキングに来てもらうまちづくりみたいなことを書かれていたんですけども、私の考えでは、ハイキングしたいだけのまちだけにはなってほしくないと思うんです。それだけのまちで、これからそれだけでいいのかなという考えがあって、それ以外にも、ハイキングしたいというのと、また、住みたいというのは違うと思うんですね。私たちの年代からすると、今の河内長野にはあまり魅力がないというか、すごく住みたいという魅力がちょっと足りないと思うんですね。ハイキングに行きたいというのもすごくいいと思うんですけども、もっと住みたいと思わせるまちになった方がいいのではないかなと、私は思います。

#### 【久部会長】

もう少しお聞かせ願いたいんですが、具体的にはどういうものがあたりとか、どういうイメージになったりとか。

#### 【白木委員】

一番思うのがお店というか、私が一番思うのが、大阪に出ていますけれども、何か、週末の度に、買って来るものは絶対大阪で買ってくるんですね。河内長野だと足りないというか、ほしいものがないという、一番思うのがそういうことです。週末に何かして過ごすために、まず大阪で準備をして、大阪のもので準備をして買ってくるという形で、週末に思いついて河内長野を色々車で駆け巡るんですけども、どこに行ってもないんですね。そういうこととか、一番思うのがそういうことです。

ちょっと話が戻るんですけども、先ほどの、皆さんがまちづくりにあまり関心がないという風に言われていたんですけども、私はあまりそう思わないで、私ももしこういう場に来なければ、そういう風に言われていた人だと思うんですね。今、こういう立場で来てますけれども、日々、皆さんは「こういう風になったらいいな」という風に思い

はあると思うんですけども、簡単に出来る場所がないというか、こういう場所にわざわざ来ないと意見が出来ないという体制だと思うんですね。どこにこういうことを言ったらいいいのかということが、全然わからなくて。

私も、家の前に大きな公園があるんですけども、昼間に子どもが遊んでいる中に、高校生ぐらいのバイクの集団が公園に乗り入れて、子どもが遊んでいるのに占領して、バイクでグルグル回るんですね。そして、夜中もバイクとかが固まって集まってきて、それを見ていて、何回もそういうことがあったので、休日にそういう様子を見て、市役所に電話をしたんですね。こういうことなんですから、どうにかなりませんかということを書いて、私が思うには、入り口に鎖などを付けたら、そんなに簡単に入らないと思うんですけどもということを書いたんですけども、お休みということがあって、平日の市役所の開いている時間に、ここに電話をしてくださいと言われるんですけども、私は平日の作事中に、あまりそういう電話はしにくいのでそのままになりましたけども。市民の人がそういう風に、どこに言えばいいとか、そういう体制が全然ないんじゃないかなと思います。皆さん何か、少しずつは思われていると思うんですよ。こういう風になったらいいとか、皆、思いはあるとは思うんですけども、気軽に意見を言える場所がないんじゃないかなと思います。

#### 【久部会長】

はい、ありがとうございます。これは多分、後ろの方で文章にするならば、「市民に身近で気軽にまちづくりの議論が出来るような、そんな仕組みを作ります」という話に、多分なっていくんだらうと思うんですけど、具体的にまたその時にお話した方がいいのかもしれないんですけども、私も今一番頑張らせていただいているのがそこなんです。滝谷不動の皆さんとお付き合いさせてもらった時に、まちづくり協議会で、もう何年か活動をされていたんですけども、私が最初にお話させていただいたのは、「ちょっと皆さんのやり方って従来のですよ」と、かなりズバッと言わせてもらったんですね。つまり、協議会の役員さんが集まって、「滝谷不動の駅前をこうしよう」と絵を描いて、「さあ、どうですか」と、市民の皆さんにご披露して意見を伺うというようなことを何度も繰り返してきたんですね。「そんなこと違うで」と。次回から、月1回するのは、夜の定例会を決めて、ここへ来たらどんな話でも出来るよというような、そんな場所を作ってください、それをお世話するのが協議会の役員さんで、そこで色々な話が出てくるのだから、それを集約すると皆のまちづくりへの思いが充分に入った計画になるでしょうねという話をさせていただいたんですね。

ただ、滝谷不動の場合は、月に1回、7時から9時まで、先ほどのお話のようなことがもしあったら、そこに出かけていってください、「公園って今、こんな状況やで」というような話を言ってくださいと、地域の方々が何とかしようだとか、あるいはそれだったら市役所をちょっと動かそうとかというような話にできるような、何かそんな仕掛

け作りが今、一緒に始めていますので、河内長野でもそういうのがどこかで出来上がってくれば、先ほどの話がちょっと前に進むのかと思います。

【太田委員】

河内長野では今のような話があったら、市の方はどこで受付をすることになっているんですか。

【藤委員】

今の現状の仕組みを申し上げますと、そういう要望・苦情はまず、自治会を通していただけますかということなんです。自治会を通す場合については、地域の問題についてはそれで通るんです。やはり、特定の人に偏ると、個別ですから、そういう時には、広報・広聴へ話を通していただければ、そこが窓口になって担当の方に回しましょうという話をしているんです。今言っておられたのは、多分、お休みの日ですので、正規の職員ではなくて、嘱託の人が、1階の入口に今日もおられたと思うんですけども、あそこで電話を受けまして、ちょっと、私、今の回答はけしからんと思っているんですが、「よくわかりました。その事情については、担当部署の方へ声掛けさせていただきますので、恐れ入りますけども、お宅さんの電話番号と名前をお聞かせいただけますか」と、これが普通の答えなんですよ。あなたがまたあくる日、休みが明けて仕事をしている時に、電話をしてくださいというのは、ちょっとけしからんという風に今ちょっと思っているんですね。えらい申し訳ないことを申しました。

実質、我々でさせていただいているのは、自治会さんが組織していますので、自治会さんの方でひとつお願いできますかということは何ぞかということ、自治会の中でまとめていただかないと、Aさんはいいけど、Bさんがこのことについては反対だと、そしてCさんが困ると、そういう風なことが色々出てきますから、民主主義ですから、多くの方のご意見がそういうことであれば、行政としてやりますよという、そういうことを挙げていただけませんかというのが筋なんだと思います。あとは、個人の問題としては、苦情処理係というのがありますから、広報・広聴のところにお電話していただければ、そこが斡旋機関になります。そこが閉まっている時は、もう一度よく厳しく言っておきます。

【久部会長】

ありがとうございます。ちょっと、別の方にばかり行くと収拾出来ないんですけども、多分、そういうお答えをいただいても、多分白木さんは、自治会との距離を感じられてますよね。そこが、ある意味で市民同士の問題として、これから考えていかなければならない話ではないかなと思うんですけどね。

### 【太田委員】

今の話の延長なんですけども、実はつい最近解決したことがありまして、すぐ裏の駐車場で、夜間、警報装置がなる車があるんです。そうしますと、私達は窓際なので、もう飛び上がるんですね。それが、延々と私が申し入れて 1 年、結論的には出来ない。そして、最近になって、とうとう私は話し合いを直接しまして、そしたら、「はい、わかりました」と翌日から止まったんですね。

まあ、今のようにおっしゃられるように、まず自治会、それから管理協会、もう 1 年間、ナシのつづてです、その間、何回もやっているんですよ。そして、その間に警察、それも私だけでなく、私の棟の住人が何人か、そういうことは実際に話していればすぐにわかることなんですけども、間に人を入れたがために、逆にそれはその人が車を盗まれてもいいのかというような、そういう反応が来まして、私にしてはとんでもないことだなと。それが、何人もいてるんですよ、そういう人が。わかっているんですけども、それは、お宅が言われているのは、もしその人が車を盗まれたら、お宅はそれを弁償するんですかとかね、まあ、しょうもないことなんですよ、実際に言えば。

私はまず考えて、どこにこういうことを言っていったらいいのかなと、それで考えて、自治会とか色々なところをやりましたけれども、どれもやっぱりダメでした。人権に関わることで、車が盗まれるか盗まれないかは犯罪のことでして、元は生活があったのことでないかということではじめて納得していただいたんですけどもね。そういうような類のことは、沢山あると思います。受付窓口が確かにあって、それをやる人にもよるでしょうけど、それを協議会だとか色々そういうことの場所を踏んで、作って話していいかどうかというのもわかりませんけども、とにかく気楽にそこへ言っていけば、こんなところがあるよというような所を作れば対処できることも多いと思うんですよ。これだけ細分化されていくと、田舎で、「ちょっとお前なんかとかせいや」といえない部分があるんですね。難しいと思います。でも、本当に、私達は愚痴を言っても、こういう問題が起きた時どうすればいいのかなと、結論は出ないんですね。

### 【藤委員】

人権に関わるとか、法律に関わるというのは、行政が直接そういう知識を持っていないので、法の専門家を何か 1 週間に、「今日は民法に関わるようなことがあれば相談に乗りますよ」、「今日はこういう風な相談に乗りますよ」、「今日は国の委嘱を受けた人権養護委員さんが、人権に関わることの相談に乗りますよ」ということを設けているんですよ。先ほどおっしゃったことを聞くと、解決できますかということ、最終解決はやはり一般の方が直接相手になってやっていただけますかと。もしくは、我々の人権養護委員の出来ることはここまでで、相手の方にこういうことだけ申し上げますというところで終わってしまうんですね。だから、ゴールに行くというのはなかなか、決着をするというのはなかなか難しいのかなと、そういう風なことは常日頃考えているんですが。

私も弁護士さんに相談をしたんですけれども、仕事を受けると動くんです。「相談はここまでです」と言いましてね、それではちょっと市民の方は納得しないですよと言ったんですけれども。

しかし、そういう風な、道のわからない方には、こういう道なんですよということをお知らせさせていただいています。その道を歩いて行っていただくのは、市民の方が直接利害関係ですから、そのために弁護士さんや、また、税理士さんがおられますので、税のことはこういう専門家に、法のことはこういう専門家にというところまでなんです。それがちょっと入ってないので、話してわかってくれる場合であれば、我々がさせていただいて、こういうことです。「はい、わかりました」ということもあると思うんですけれども、向こうが必要以上に自分を守るためになんだからと言われると、それ以上のところはまた、お互いの人権に関わる問題になってしまうのかなと思います。

特に地域の協働の問題が、地域としての住民同士の問題がやはり、これから大事になってくるのではないかな、ということは、河内長野市は大体、4:6 なんですね、旧と新しく入って来られた方とで。それで、新しく入ってこられた地域ということは、皆さんはわかりませんよね、長く住んでいるとわかるんですけれども。旧の方ということは、生まれながらにしてそこに住み、そして育ち、そこでまた働いてやっておられるところもあります。これは、「おい」「お前」でどうもわかるようなんですけれども、当然、新しい方というのは、案外、協力しようという気持ちはあるんですが、ただ、個人の家庭の中まで入ってこられるのはちょっとやっぱり敬遠されるんでね。外でのおつきあいをしましょうと。中まで入ってきてほしくないという風なことがありますので、そこをこれからどういう風になっていけるかなと。

それがなぜかということ、ここにありますが、災害の時に、家の中がわからないと、もし何かがあった時に、先ほど少し出ましたが、お1人住まいの方が、遭われた時に、どこに寝てますかとか、どういう生活をしてますかとかがわからないと、助けようがないんですよ。だから、そういうところまで、場合によってはやはり知っておかなければいけないのかなと、そういう付き合いをしなければいけないのかなという風にはやはり考えますね。今までにない入り方をちょっとしなければいけないと。

#### 【久部会長】

そういう意味も含めて、3ページから6ページでのところで、何かもう少し書き足しておきたいという話がありますかね。

私から問題提起をさせていただきたいのは、「背景」のところですね、今のような地域の問題だとか、市民の問題が全然書かれていないんですね。多分。これは行政側が書いたことによって、忘れていてではなく、多分遠慮をされているのだと思うんですけれども、やはり、地域の問題、市民の問題を、今こういう状況じゃないですかというのは、ちょっと僭越かなというところで、少し埋もれてらっしゃるところがあるんじゃないか

と思うんですけど。ただ、先ほどのお話を、白木さんの方でもお話があったように、関心がないのではなくて、声が上げられるようになかなかないというような問題とか、あるいは、どんどんやらないといけないという市民の意識は高まっているんだと。だから、そのあたりを あたりで少し起こしていただいて、書いた方がいいのではないかと私は思うんですけども、いかがでしょうか。

#### 【木之下（純）委員】

色々な形で活動に参加する中で、皆さん何らかの形で意識はしていると思うんですね、自分のまちに対しては。娘がいますけども、やはり広報とかでした時に、やはり関心のあることには目を向けてというところがありますのでね。しかし、何かが起こらないと、いざそこに行動するというところまではいかないという部分があるので、やはり、情報はいつも流しつづけなければいけないんだけども、やろうとしている人たちを、市民自らが参加、今から見直しの時とかそんなところでも、希望すれば参加ができるという風な部分を是非、この中で入れていくのがいいのかなと思うんですね。ここに入れるのがいいのかどうか・・・、「自らが行動できる場」とかいう部分を是非入れていっていただきたいなど。

#### 【久部会長】

ありがとうございます。そういう話を書いておかないと、多分、我々がやる協働のまちづくりへ持っていくときに、今の状況だったら、多分、 の財政が悪いから市民参加だという話にしかつながらないですよ。そうではなくて、やっぱり市民も、もっともっとやりたいという気持ちが盛り上がっているんだ、でも、それに対してまだ十分な仕組みがないんだというあたりを、 で書いておくと、協働のまちづくりに持っていく時に、かなりその意味合いが変わってくると思うんです。そのあたりをまた事務局にお願いをして、書き換えしてほしいなと思います。

#### 【木之下（純）委員】

先ほどの、ハイキングに来てほしいまちというところで、もうちょっと住みやすいまちづくりをということだったんですけども、私も、これの前の市民会議をまとめる時にも参加させていただいて、約 1 年間、皆さんで討議をしてきたんですね。その片方のグループの中ではやはり、これが今日の私達の「協働のまちづくり部会」の「安心安全」とか、コミュニケーション、コミュニティという部分についてのテーマで話し合いをしてきて、両方でまとめを出して、このハイキングに来てほしいまちというのは、ここでこの文章としては5ページのところで、「河内の正倉院」という形で、誰か言葉を入れていただいたのかあれなんですけども、やはり文化とかそういう風な部分があるので、ハイキングに来てほしいまち、または散歩したいまちというのは、自分達が自ら、市民が

まず楽しく元気に、色々な意味での歩き回れるまちに、自分達で手作りでやっていかないと、他の人たちにも来てもらえないんじゃないかなと。やはり、住みやすいまちにすることが一番基本にありながら、一応楽しく元気にという部分で、やっぱり、外に皆が出てきて、色々なところで会話して、ハイキングが出来たり散歩でも出来るような、そういう風なまちづくりをという意味でそういう風に述べさせていただいたんで。前向きに考え方としてするためにはやはり、先ほどのこのあたりに、行政の協働体制の仕組みづくりも大事だと、協働に対する。それはやはり、市民側もそういう風な場、それはお互い行政と市民が、何かがあった時には、いつも同じレベルで、同じ机の上で話が出来体制という仕組みが必要ではないのかと思っているんですけども、私たちはずっと。そうすることによって、後の他の部会、「調和と共生のまちづくり」と「元気なまちづくり」から出てきたいろんな問題も、やはりそういうものが1つのテーブルの上で、行政、市民とかいう部分ではなくて、市民として話し合う場が持たれていくというような場所って作られていく、それは行政と市民との太いパイプでも、きちっとそれが活かされていくというシステムという部分がやはり大事なと。そういう風な部分を、市民も是非、これから作っていきましょうというような部分を、この中に入れていただきたいと思います。ちょっと分野は違うところなんですけども。

【久部会長】

ハイキングというのはある意味でキャッチフレーズに使っているんで、どちらかというと歩いて暮らせるまちを目指そうということですね。

【木之下（純）委員】

そのペースでいいのではないかと、住みやすいまちというのはね。元気もあるんですけども、そういう風な部分も。高齢者という部分も含めたり、子育てをするという部分もやはり、車のスピードでなくて、歩くスピードという部分も子育てには大事だと。やっぱりそういったものをしっかりと基本にきちっと入れていきたいなと思います、まちづくりの中に。

【久部会長】

はい、ありがとうございます。それでは、ちょっと話題を変えさせていただきまして、8ページ、9ページは次回以降、特に9ページは、集中的に議論させていただきたいと思うんですけども、10ページ、11ページのところがですね、全部会共通で少し議論をしておかないといけないなと思うんですけども、まず人口の問題なんですけども、ここでは現在の人口の約12万人をこの10年間で維持することを目標としましょうと、そういうまちづくりをしていこうというようなことになっているんですけども、このあたりの人口の話で、いかがでしょう、気になっていることとか、あるいはちょっと聞いて



みたいこととかございますでしょうか。

【太田委員】

市の方としましては、人口を増加させるという方が、今は逆に減っていったんですがね、増加さすということがやはりベターだと思っておられるのですか。

【藤委員】

先ほど申し上げた通り、約4年半、人口は減り続けているんですよ。ちょうど半ばの、12年10月に私が今の助役になりまして申し上げたのが、今までは人口急増ということで、非常に河内長野市は率だけでいうと、全国で5本の指に入るほどの率だったんです。それで規制なんですね、もう来てくれるなと。もう大変なんだと。もう、学校は建てないといけないわ、急に道を造れというわ、とても金がないと。しかし、窮余の一策で、それだけ来るのであれば、1戸あたり何ぼの負担金を入れてくれと、既存の住民に負担をかけられないと、そんなことをやってきたんですけども。

もう1つやったのが、土地を、1区画の広さを大阪府の基準よりも広くしたんですよ。もう来てくれるなという話をずっとしておりましてね。ところが人口は減ったものだから、その規制を取らないといけないわ、緩和しよう。だから、土地の広さもある程度、少なくとも国が言っている広さでいいじゃないかと。そして、負担金についても、買って住んだら市民だから、新しい市民にそういう負担を求めるのは止めたらどうでしょうかということで、1戸あたりの、あれは40万から50万円ぐらいあるんですよ、もう止めよう、そういうような負担金ももう取らないでいいだろうと。それで1戸あたり70万円ぐらい助かるでしょうと。そして、土地も面積が少し小さいもので建てるわけですから、買っていただくにも買いやすくなるだろうと。そういうことでやろうということできたんですよ。今そこで、それでもまだ減ってますからね、出来れば今の時期で、まず維持したい、止めたい。この10年間で、出て行く人を止めたいと、こう思っています。

ただ、その人口の減っているところを見ますと、当然、入ってくる者と、出て行く者があるんですよ。入ってくる人口が実は4,000人ぐらいなんです。そして、出て行く人口が5,000人ぐらいで、急に1,000人減ったことがあったんです。そしたら、どうして出て行くんですかということで、ちょっと分析をしてみるとやはり、ある意味では都心回帰ということでは言われていました。それはどういうことですかと言うと、非常に私からこういうことを言うのもなんなんですけど、長野は住みにくいまちだと。どうして住みにくいんですかと言うと、開発なんですね、山を切り開いてやったものですから、物を買って、普通の生活の買い物で、山を下って、そしてまた登ってこないといけないわ。下りる時はいいんですけども、登ってくる時は大変だと。今になって初めて、住んで30年経ってやっとわかったと。ということは、30年前は元気だったからわからなかった

んですよ、そんな坂があるかなということが。今、仕事を終えて、そして家に住むようになって、買い物に行く時にはじめて、これだけの坂がわが駅から家まであったのかという思い。これでは、これから歳をとったら大変だと。そして、家にもひょっとしたらもうエレベーターがいるのではないかと、歳をとってくると。そして、それだけのお金をかけるのであれば、そしたら駅の近くでマンションでも買って、もうそのマンション自身エレベーターがついているから、住むのはワンフロアでいい、今のままでいくと2階建てになるから、そういう風な状況になってますとということを聞いたんです。

そしたら、それではダメだからということで、便利さを求めて、規制緩和の一環として、ご存知だと思うんですけど、美加の台から国立病院までのバスを走らせたんです。それはどういうことですかということ、65の方が増えてくると、行かれる方は、総合病院に多分行かれるのではないかなと。そして、図書館でありラブラリーホールであり、市役所であり郵便局であり、そういうところに行かれるでしょうということで、バスを電車に沿って走らせた。それは、どうして走らせましたか、費用をあげましてね。電車に乗ってもらえばいいじゃないかと。ところが、お年寄りで、要するに弱者の方は、まだどこもエスカレータが出来ていないから、どこも登るのがしんどいよやと。だからそこで、バスで団地から美加の台の駅まで来ていただいたら、もしくは、三日市の駅まで出てきていただいたら、そしたらそこからまた、時間さえ許すのであれば、電車よりも時間はかかるけれども、バスに乗って行きたいところまでそのバスが運んでくれるというそんな状況を作りましょうということで、この取り組みをしました。このバス代、実は赤字ですが、入ってくるのがその2割ぐらいしか入ってこない。ですけど、そんな取り組みをしながら、人口をとりあえず止めたいという思いを今、持っています。

その止め方には2つあり、お年寄りの止め方と、若い人が入ってきてくれる、そういういいまちにしようと、入ってきてくれる人をつくることだと。そのうちに、自然的に、生まれて亡くなっていくということが、今、生まれる人が多いと。それが、多分逆転してですね、自然減少も起こってくるかもしれない。今は社会減少だけですけども、それをどう食い止めていくかということ、2つの点に絞っていかなければいけない。それでこの10年間は維持できたらというおもいがあります。

#### 【太田委員】

人口についてはそういうことでしょうけども、例えば今のお話の中で、規制の緩和ということがありますね。規制を緩和して、今既に、今まで止まっているプロジェクトをですね、進むプロジェクトはありますか。例えば団地の開発ぐらいのところだと思うんですが、今まで規制をかけていて、今度規制を緩和したということによって、それが、今まで出されている申請がOKになって、例えば開発が許可になるというような案件は今、現実にありますか。

【藤委員】

それが出ました。大きいものではなくて、戸数にすると、20戸、30戸という単位ですけども、これは、待ってましたということで出てきました。ただ、今はまたちょっと止まっています。

【太田委員】

私は今まで開発する側で、全国一の流入とかいうことで騒がれたものを3回ほど手がけてますからね、その通りだと思いますね。でも、今から行くところがあるかということになると、河内長野で大規模に、10戸とか5戸とかそういう場合はいいんですが、開発をする場所を考えないといかんでしょうし、多分ないだろうなど。これからそういうことで望むべきものはないだろうなど。

【久部会長】

ただ、今まで住んでられた方が出ていっているわけですよ。そうすると空き家が発生するわけですよ。また、他のところを開発すると、空き家を残したまま、新しい家が建つということになりますから、ある意味でまずい状況も起こってくるのではないのかなど。

【太田委員】

私なんか、今さんざん言われたことで、ずっと大阪に勤務してまして、まあ不便だけでも、1人だけだからということで、我慢していたというわけではなくて、自分もある程度、こういう自然が好きだからということで、ずっとやってきましたけど。今、通勤ということを通り切ると、河内長野はいいところなんです。だから、年寄りには案外向いているんじゃないかと思っているんですよ。まあ、そういうところもありますけどね。それが河内長野の取り柄じゃないかと思うんですね。

ただ、若年層を取り込んでいくと、逆に。そうすると、今のままで自然があるからちょっと来ないか、ハイキングもいいぞというので呼ぶのは、中にいる者にはそれは健康的なまちでいいと思うんですね。でも、外から取り込む、あるいは今、ここに住んでいる若年層を取り込むというのには、全然方向が違うと思うんですね。やはり、産業とまでは言わないですけど、例えば他から持ってくる、一番簡単でいいのは、こないだもいろいろ話していたらですね、学校関係か教育関係のもので1つでもポッと来たり、あるいはメインになる企業が、それこそ何かを持ってくるかというのであれば、それこそ、元気なまちというかいっぺんにね、変な話ですけどもね、そういうことの部署というのはあるんですか、市には。

【藤委員】

実は、第3次総合計画の時に大きく1次、2次と変わったのが、2次で当初の計画自身がほぼ完了したと。ということは、この開発で終わろうと、これが2次で大体終わったんです。しかし、3次の時に、しかし、これでいいのかということになりまして、そしたらどうするんですかということ、ちょうど、河内長野市を見ていただくと、住宅の市街地のエリアと、そしてちょうど田園風景のあるエリアと、そして山はもう国定公園なんですよ。その3つがありまして、そしたら残されているのが、田園風景のある、総合計画では環境共生エリアと言ったんですよね。そのエリアのところですね、環境と人が共生できるような整備をしようじゃないかと。そして、今おっしゃった通り、そこに何を求めるんですかということ、学校、高等教育機関とそして多少の住居、そして、先端産業と、その、多少の住居、そして、福祉・医療に関わる者とそれに携わる住居、こういうことを考えまして、エリアを5箇所、平均的な延べ面積は800haほどで、そういうものにしましょうということをやったんです。実はこの10年間、何もいけてません。平成8年から始まった第3次総合計画、知っての通り、バブルがまさにはじけた年から来ましたから。第4次総合計画でそれを引き継いでいくかどうかはこれからご議論していただかないといけない。その開発については、そういう部署は、今やってますのが、企画総務部の企画グループが今、部署なんです。ここで計画が決まると具体的に今度は都市計画、まちづくりをしている係ですから、その課の方に移ってきます。それでしょうと。ただ、今まで、先ほども規制ということを申し上げました。来るのであれば、この場所にどうぞ自由に来てください。あなたが道を造って、あなたがその中の整備をして、そして、学校の用地も提供して、そして負担金まで入れてどうぞやってくださいというのが今まで。しかし、それではもう絶対来ないんですよ。相手も選ぶ権利がありますよ。だから行政が今、将来10年先のために、どこまでその開発に税金を投下して新しいまちづくりができるかというのは、多分今回の課題ではないかなという風な気がしているんですね。

それは開発なんです。先ほどハイキングの問題が出ましたんで、ちょっと言わせてください。実は、河内長野市は、今言いました通り、山あり田園風景あり住宅地があるんです。そして、知ってもらいたいのは、山を守り畑を守っておられる方がそこに住んでおられる。その人たちが住むためには、経済的なものが当然必要になってきます。その経済的なものを、やはり市内の方が出来たら、その畑で採れたものを買っていただきたいし、もしくは、その山で採れたものを買っていただきたい、使っていただきたいという思いがありまして。ところが、人口が減ってくるもんですから、長野の住民だけでは無理だろうと。そうすれば、その恩恵を蒙っている、山に降った雨が川に流れ下流まで行って、その水を使ってくれる方がおられるのであれば、緑もやっぱり守ってもらわないといけないと。だから、知ってくださいと。外の方には知ってくださいよと。知ってなお、行ったのであれば、帰りに、悪いけれどもその農産物を買ってくださいと。そして、山で作ったものを、出来たら使ってくださいと。そして、出来たら、商店街に行

って物を買って食べて、買ってくれないかと。もし良ければ、来週もわざわざ食べに、買いに来てくれないかということなんです。

そういう意味で元気にしようというのですね、ハイキングの出来る、市内の方には、河内長野にはこういう文化財が沢山ありますよ、これは長野が誇れることなんですよ、皆さん一度肌で感じて見ていただいてやってください、こういうことでこれをやっている。市民の方にも協力していただいて、観光ボランティアと文化財ボランティアの活動も非常に多くの方に来ていただきまして、こういう場所でも、ボランティアの方が来られた方に説明しているんですよ。もてなしの気持ちで、これはこういうことですよということを説明してくれる方も沢山出てきたということで、非常にありがたいなという気持ちはしているのですが。ただ単に山を荒らしに来ているのではなくて、その田園風景を残したいと。そのために、そういう風なことを、出来たら市民だけではなくて、その恩恵を蒙っている隣接している都市と、もしくは大阪府内の府民の方々に来ていただいてわかっていただければ、少しでも何らかの協力をしていただけませんか、残すために努力していただけませんか、協力してもらえませんかということの意味で、ハイキングということもちょっと考えています。

#### 【久部会長】

ちょうどいい機会というか、先ほど、藤さんのお話の中で都市構造に触れる話がありましたので、人口と都市構造の両方を議論させていただければなと思うんですけども。

先ほどのエリア分けが、これを踏襲する形で今回もなっているんですよ。これでいいのかどうかということですね。

あるいは、都市構造例の「真の郊外居住環境」の整備というのがありますよね。このあたりの問題とか、少しこのあたりでご意見をいただいたらと思うんですけど。

先ほどから、白木さんの方から、ちょっと買い物には不便でないかと、バスの話もありましたけども、そういうところは多分、市街地ゾーンのところを書かれておられるように、「日常的都市魅力の充実」というところに入るのだと思うんですけども。今度是一方で、郊外居住ゾーン、いわゆる環境共生ゾーンと言われているところでは、もっと違う、自然に近いという魅力を発揮することで、河内長野の魅力あるまちづくりが出来るのではないかと。単に都市の魅力を充実させるだけだったら、もっと北側の方に住んだ方が、大阪市内に近い方に住んだ方が魅力があるんですけども、やっぱり河内長野のメリットを出すのであれば、河内長野らしい魅力を出していかないと、単に都市魅力だけをアップするということでは、なかなか他のところでは勝負にならないだろうというようなことなんですけどね。そのあたりで、ちょっと都市構造ということで、どちらでも結構ですので、ご意見とかご質問とかいただいたらと思うんですが。

#### 【木之下（純）委員】

この環境共生ゾーンというのは、この部分を私はよく歩いたりとかしますし、住んでいる方々と最近よく朝市とかでお話とかをしているんですけど、本当に高齢化なさっていて、住んでいるところが、天見地区というところがあるのですが、そこらあたりはもうほとんどお店が1軒もないんですね。天見という駅で降りるんですけども、雑貨屋さんひとつない、駅前にあった1軒がなくなってしまっていて、どうやって住んでいるのかなと。やはり1週間に1度、大阪市内に住んでいる人とか、河内長野の市街地の方にちょっと住んでいる人たちが、子どもさんなどが買い物をして、届けて、それで生活しているような所も多くあると、そこに地域の方々とお話をすると。

でも、本当に駅をひとつ降りると、風を感じるというのか、全然異空間に入れるところなんです、駅からもうすぐのところですね。だから、そういう風なところを、何かうまく引き出して、そこに住んでいる人たちもその場にながら、皆とコミュニケーションできるような何か体制とか仕掛けが出来たらいいなと思っているので、それをどうしたらいいのか、まだ私もあれなんですけども、やはりそういうようなことも含めて、そういうようなものを色々考えたアイデアを持ったようなものが実現していけるような場づくりが出来たらいいなと思っているんですね。それで、こういう風な部分というのは、是非、河内長野市の一番の特徴として出せるのではないかと考えています。

それから、先ほどの人口のあれで、空き家が出てくるのはどうなのかなという部分があったんですけども、だから、そういう風な部分も、私が住んでいるのは千代田地区なんで、比較的便利なところなんですけども、でもそこでもやはり空き家が出来てきているんです。便利なところだけに、バブル期に1軒、2軒と余分に購入していた方々もいらっやって、息子さんとか娘さんが住むんじゃないかなということでしたんだけど、もうそれは他で住んでしまって、東京とか色々なところに住んでしまって、もう帰ってこない。すると空き家になっているので、草が生えたりとか色々してしまって、宅地開発をして30年から40年の地域なので、やはり人が住まなくなると家が倒れてしまうというか、そういう風な状況とかがあるので、早めに何か手を打つ方法がないのかと。法律的には色々な気配りがあると思うんですけどね。何かそういう風なところも、何らかの形で借りたりとかしながら、そういう風なところに、本当に一軒家に住みたいんだけど買ってまでは住めない方と、例えば退職した後に、今、太田さんがおっしゃったけど、勤めている時はあれだったんだけど、やっぱり住むところとしてはすごくいい場所というところで、そういう風な部分の住宅の空き家の利用なんかが、もうやっぱりこれから、少し考えられるような形でいくと、出るところもあるかもしれないけど、入ってくる人たちの受け入れ場所みたいなところも何かできるのではないかと、そういうのを見ながら感じました。

#### 【久部会長】

村上さんが先ほど、子育ての話をされていたんですけども、自然が近いとか、あるい

は、先ほどの産地に近いから安全な野菜が食べられるとか、ある意味で子育てにメリットになるような部分というのが河内長野にはないのかなと思うんですけどね。そのあたりはどうなんでしょう。日々暮らしてこられて。

【村上委員】

やはり、空気とかがすごくきれいだと思うんで、あと、歴史とかも子どもに勉強させるにはすごくいいところだと思うんですよ。まだ具体的にはそういう意見はないんですけども、そういうところは維持しつつ、若い家族が来たらいいなというのはあります。

【久部会長】

ありがとうございました。他、都市構造とか人口のあたりで、ご意見とかご質問はありますでしょうか。

【神田委員】

まず、人口のところなんですけども、先ほど藤委員の方から、出来れば個人的な意見だけでも、現在の人口を何とか維持したいというお話がありました。その下に、いわゆる生産年齢人口ということよりも、活動人口ということに、これからはしておくべきじゃないかというお話がありましたね。書きぶりだとは思んですけど、ちょっと、都市の活力の低下が懸念されるということが前段で書いてますんで、それは今の考え方からするとそうなのかなという部分もあるんですけども、ちょっとそこは整理をした方がいいんじゃないのかなと。

私も行政のはしぐれに籍を置いてますので、悩ましい部分であるんですが、10年後の人口が仮に河内長野市が11万人前後になると言った時に、12万人という現状を維持しようと思うというのは、相当、多分ハードルが高いのではないかなと思います。昔だったら、本当に、河内長野市さんだったら、どんどん大阪市内から一戸建てを求められて来られているという流れがあったんですけども、先ほど来言われてますように、今は逆に結構高齢化してくると、そういう都市の外部経済を使いたい、具体的には映画を観たいとか、あるいはちょっとした演劇を観たいとか、あるいは、車でなくても地下鉄で移動すればすぐ行けるという、市内での居住ということに今のところってますので。ですからその辺がまだこれからの議論になるなと思うんですけども、1万人の格差というのは、もしそれを本当に考えるとするならば、どんな手立てを打つのか。なかなかこの頃、行政としての施策として、人口が増えるというのが、昔ほど施策の有効性が効かないという風にこの頃身にしみてわかってますんで、なかなかそこは悩ましい問題ではないのかなと思います。

それは、今すぐどうするという結論ではなく、今後皆で考えていく課題であろうというのが1点と、あと、まちづくりの、どこに書けばいいのかなと、基本理念なのかどこ

なのかわからないんですけども、まちづくりの目標として、5つの側面のまちづくりの目標を設定すると書いてあるんですけども、共通の考え方として、これまでのストックをどう活用していくのかという視点がどこかにやはり書いておくべきではないだろうかというのと、それとよく似たことなんですけども、河内長野市さんの人口がわっと増えていって、その時に小学校、中学校、あるいは先ほども出てきました道路ですね、あるいは、下水はまだある程度先でしょうけど、そういうインフラが多分更新時期を迎えてくるだろうと思います。そういう更新をどういう風にしていったらいいのか、もちろんお金をかければできるわけですけども、それをやはり、財政状況が厳しくなっていく中で、従来型の行政にお任せよと、市民は、行政がやってくれるからそれでいいんだということではなくて、やはり、そこに一定、市民の手でできる部分もあるだろうし、行政と市民で協働すべきところもあるだろうし、あるいは、これはもう行政でしか出来ない部分もあるでしょうけど、そういう一定の区分をして、インフラをきちんと更新していくということが、先ほど出ていました、都市の魅力、あるいは、そこで住みたいなということに間接的にはつながっていくのではないかなと思います。

【久部会長】

はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

【太田委員】

これはちょっと質問なんですけど、河内長野市は危機管理というものについては、どのような状態になっているんですか。

【久部会長】

これは多分、次回のテーマで、非常に重要なテーマなので、もし良ければ、次回回しでお願いできますか。「安心安全」の一番重要なテーマですので。

【太田委員】

そうしましたら、今回ですね、台風と震災が他で起こっておりますけれども、これに対して河内長野はどのような協力を今現在やっておられるのでしょうか。それも次回でしょうか。

【久部会長】

そうですね、次回にお願いできればと思うんですけど、逆に、今の質問は事務局に対して、少しそれがわかる資料を用意してくださいということだと思うんですよ。私の方からもついでにお願いをしておきたいのは、行政側の危機管理だけではなくて、今、地域防災の話で自主防災のシステム、仕組みがづくりが始まっていますね。そのあたりの現



状とか、もし提供いただけるのであれば、議論の対象になるのかなと思いますのでお願いしておきます。

【太田委員】

ついでにですね、今までそういうものが、この河内長野市ではどういう状態であったかということもお願いしたいんですけども、過去何十年か、そういう災害とかそういうものが起こったか起こらなかったのか。

【企画グループ主幹 中野】

過去の災害被害の状況ということですか。

【太田委員】

その時の対応とかも。

【久部会長】

もう1回、10ページ、11ページに帰らせていただきまして、人口と都市構造はいかがでしょうかね。大体皆さん、ご意見いただきましたでしょうか。

ちょっと私の方から、今回は部会長としてではなく、個人的な一委員としての話なんですけども、私も色々ところで総合計画のお手伝いをしていると、総合計画の一番の目玉が、この人口をどうするかということなんですけど、先ほど太田さんのご意見にもあったんですが、本当に増やすのがいいのかどうかというのは微妙なところなんですよね。例えば人口1人あたりの とする話では、分母が小さくなると得をするんです。例えば、同じ公園面積でも、人口が少なくなったら1人あたりの面積が増えますよね。図書館の蔵書数でも人口が減ったら、1人あたりが沢山の本を抱えていることになるので、逆にメリットもあるんです。なぜ、増やさなければいけないかという点をもう一度、きちんと押さえておかないといけないし、人口を1つの指標にして、まちづくりをするという時代がずっと続いてきたんですけども、本当に人口に合わせてまちづくりをするという大きな指標でこのまま行ってもいいのかな、別の指標もあるのではないかなというような気もしているんですね。

今日は問題提起だけをさせていただきますけれども、そろそろ人口ありきの計画づくりというのを見直す時期ではないのかなとは個人的に思っています。私は逆に、先ほど神田委員からもありましたけれども、人口ではなくて人口バランスの問題を気にするべきなのかなと。そこである年齢層だけが増えていく、逆に言うと、若年層が減っていくということが人口バランス上問題ではないかなという風に思いますので、この人口の数だけではなくて、どのような増え方、減り方をするのかというような質も、少しきちんと書き込んでおく必要があって、それをきちんと書き込めば、先ほど神田委員のお

っしかった、活力の問題というのもある程度きちんと押さえられるのではないかなという気がしています。

それともう 1 つ、先ほどの環境共生ゾーンの話なんですけども、大阪の北部、茨木と箕面のところで、多分、日本で最後の本格的ニュータウンだと言われている彩都が今、開発されていますね。1 次の販売が大体終わったんですけども、かなり売れ行きは好調なんです。この前、彩都の方々と交流会をしたんですけども、意外や意外、高年層が多いんですね。若年層と高年層なんです。そして、中間層がないんですね。これは非常に面白い傾向だなと思って見させていただきました。小学校は開校しましたけども、たちまち数十人の子ども達が入っているんですけども、中学校は 5 人だったかな、だからその年齢層がガクッと落ちているというかないんですね。それはひとつは、山の方に近づきますから、安い値段で住宅が持てるということで、若年層が増える、これは一定わかるんですけども、高年層の方は、今まで千里ニュータウンにお暮らしとか、もう少し山から遠い所にお住まいだった方が、終の住処として改めてそこを購入されているという方が、案外おられるんですね。そこで色々聞いてみると、1 人の典型的な方は、千里山にお住まいで、貸し農園を能勢町の借りていたんですけども、そこまで車で行くというのは非常に不便だと。彩都に住めば、近くに貸し農園を借りられるということもあるので、そしたら住宅と貸し農園が近い彩都を選びましたという方がおられたりとかですね。

それから、彩都では、先ほども出ました農家の方と交流というプログラムがあって、例えば、田植えの経験も出来ますよとか、あるいは、農園を借りても農家の方が指導に入ってくださいますよとか、そんな形の、従来住んでいる農家の方と、新しく入ってくるニュータウンの方々との交流で魅力づけをしている部分があって、それが案外人気で、高年層の方は選ばれているということなんです。ひょっとすると、それが 1 つの参考になって、河内長野の、先ほど藤さんがおっしゃったように、農家の方、それから林業を営んでいる方がおられるわけですから、その方とうまくタイアップして、河内長野の居住の魅力というものを上げていく戦略というのが取れたらいいのかなと思ってまして、そういう意味を込めて、ここでは「真の郊外居住環境」ということを言葉として使わせていただいているということ、少し、共有しておきたいと思います。

「真の」ということは、「真」でない郊外居住があるということですね。それは何かと言ったら、単に交通が便利で適度な価格で買えたという時代で、どこでも行っても良かったんだけど、こういうところに少し広い家がほしかったんだという形で、河内長野にお住まいを始めた方もおられるはずなんです。その方は、別に自然環境の魅力を云々ではなくて、購入価格が適当であった、あるいは、ちょっと広めの家が持てたということで買われて、20 数分で難波まで出るのであったら、そんなに不便でもないかなというので買われた方がいっぱいおられたと。それは本来の意味での郊外居住ではないだろうという意味でね。本当に自然の魅力みたいなものを感じながら、自分も自然の中で

活動したり、あるいは、場合によっては山の管理とかそういうこともやれるというような形で生活されるというのが、「真の郊外居住」ではないのかという意味で、ここでは使わせていただいておりますので、そのあたりも踏まえて、また次回以降、議論の中でもお話を重ねていただければと思います。

そろそろ 12 時半になるんですけども、全体を通じて、ちょっと言い忘れたこと、お話をしておきたいこと、特に次回、私の思惑では、「安全安心都市」の部分と「自律協働都市」の部分と、1 時間ずつぐらい議論をさせていただきたいなと思っているんですけども、その時に、先ほど太田委員の方からも出ましたように、必要な資料とか、そういう風なものがもし、今、思いつくのであれば、少しお伺いをしておきたいと思うんですけど。また後ほど、まだ時間もありますので、事務局の方で、ちょっと自分の言いたいことを調べるために、こんな資料とかがあったらいいなというお話がございましたら、事務局の方までお願いしたいと思います。

< 日程調整のやりとり >

【久部会長】

それでは、12 日の午前ということで、10 時始まりでよろしいですね。ということで、我々の会はそうさせていただきたいと思います。他に事務局の方から何か。

【企画グループ主幹 中野】

どうも、久部会長、どうもありがとうございました。次回の第 2 回部会ですが、12 月 12 日の日曜日ですね、午前 10 時から。場所につきましては、また後日、会議のご案内に際しましてご連絡させていただきたいという風に考えております。どうかよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。